

第57号

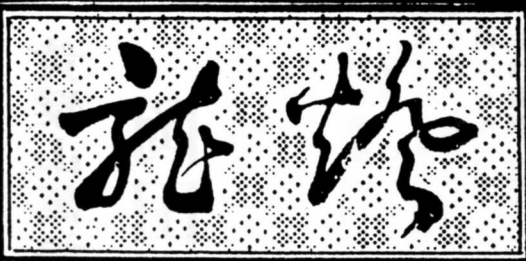
大阪市史跡 龍滝神師墓所 宝亀山九島院

発行所

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号
TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行者

第二十五世住職 奥田啓知(智證)



平成二十一年春 阪神なんば線開通

高級料亭『船場吉兆』廃業

のれんを妄信せず 自らの舌で選ぼう



牛肉産地偽装事件などで経営が悪化し再建中の高級料亭「船場吉兆」(大阪市中央区)は廃業に追い込まれました。客の食べ残した料理を使い回していたことが新たに発覚し、急速に客離れが進み、収益の確保の見通し立たなくなり、再建断念を決めたということです。

昨年十一月の営業休止前まで本店をはじめ船場吉兆の料亭4店すべてで客の残した料理の使い回しが行われていました。

客が手を付けずに回収された銀ダラやハモ、牛肉などの焼き物を再び調理して提供したり、折り詰め弁当に入れることもあったそうで、刺し身に使うワサビは、客が箸を付けた場合も回収し醤油に混ぜ「ワサビ醤油」として別の料理に使ったり、鰻井は電子レンジで温め直したうえ器を替え、石焼きにする魚介類やフルーツゼリーはそのままだ別の客に出すこともあったそうです。

女将の湯木佐知子社長が言う

「手付かずの残された料理」としても、別の客に使い回すなど老舗の高級料亭にとってあってはならないことです。

室町時代の禅僧の一休禪師にこんな逸話があります。京都の商家で盛大な法要があり、その導師に一休和尚が呼ばれました。和尚は気軽に引き受けました。が、そこは一休和尚。持ち前の茶目っ気を発揮し、どこからか汚ならしい着物を見つけてきて手足に煤(すす)をつけ孤(こも)をかぶってその商家へ行きました。

商家の主人はその姿を見るや下男に命じて、さんざん棒で打ち据え追い出させました。そのあと、和尚は金襴の袈裟に身を包んで、堂々と商家の門前に立ちました。主人は「どうぞ、どうぞ」と奥の座敷へ案内しようとしたのですが、「いや、愚僧はここで結構です」と一休和尚は動こうとしません。「ここは下郎の座るところですさあ、どうぞ奥へ」と主人。和尚は言いま

す。「では、この衣だけを奥へ連れて行ってください。中身のわしは、ここから追い返されたのですから・・・」(ひろさちあ著 仏教とっておきの話)

私たちは外見や名前、看板で判断してしまいがちです。そうした凡夫の性(さが)を逆手にとり、「船場吉兆」という老舗の暖簾(のれん)に思いがかり使い回しても、「吉兆」という暖簾に疑いを持たないと、客を馬鹿にした結果、こうしたことが常態化した結果、こうしたこと。私たちも暖簾や看板を妄信せず、自らの「舌」で本当に美味しい料理を食べたいものです。

数年前、たまたま愚妻と一緒に心齋橋の吉兆で食事をしようとしたことが予約がないとダメでした。高額の料金をとられたうえ、「手付かずの残された料理」はゴミンです。

新規墓地を開設しました。故郷の墓を移される方や寿塔(生前墓)分家墓をお考えの方 一度お問い合わせ下さい

新規墓地を開設しました。故郷の墓を移される方や寿塔（生前墓）分家墓をお考えの方一度お問い合わせ下さい。

黄檗山萬福寺第六十一代管長

岡田亘令猊下誕生

入退山式挙行

当院は黄檗宗に属し、臨済宗（禅宗）の一派です。大本山は宇治にある黄檗山萬福寺ですが、仙石泰山猊下の管長任期（七年）満了をうけ、岡田亘令黄檗山禅堂元師家（六十六才）が、黄檗山萬福寺第六十一代住持に就任され、新管長が誕生しました。



頭瑞光院（亘令猊下の自坊）に赴き迎請。派中僧侶・檀信徒と共に瑞光院を出発、鐘鼓交鳴の中、ゆっくりとした足どりに厳かさを秘め山門に着。山門には宗内尊宿・有縁関係者約百人が出迎えました。関門の法式に則り、新命猊下と監寺（かんす）和尚との間で禅問答の祝問が繰りひろげられ（写真）しました。

（山門頭一句）

五十年前行脚の姿
入山今日報恩の時
門に臨んで杖を曳く禅和子
青松瑞色体裁奇なり

次にご開山堂でご開山に心境を法語で報告され、本堂の

（開山堂香語）

真空妙有心を以て傳う
命脈聯綿黄檗の禅
普照の児孫余徳に浴す
奉酬の慈蔭脚跟の辺



黄檗第61代
岡田亘令猊下

大雄宝殿で御本尊の釈迦如来
仏に参拝、黄檗山住持の住まいである東方丈の寿位の間に
寿位席が堂頭猊下から新命猊下に譲られ、ここに入・退山式は無事円成しました。

- ◎ 継承者がいなくても安心
◎ 無縁になる心配がない
◎ お寺が続く限り供養される
◎ 永代位牌が位牌堂に祀られ
◎ 彼岸・お盆には大勢の僧侶で回向される
◎ ご遺骨は大亀地藏尊の蓮台下で土に帰るよう埋葬される
◎ 永代供養だけの方も
◎ 生前に依頼もできる
◎ 管理料は不要
◎ 永代志納金一霊三十万円
◎ 永代位牌は二種類
◎ 宗旨・宗派は問いません
◎ お墓を整理して合祀される方もおられます
- ◎ 新規境内墓地（西区で当院だけ）も募集しています。お寺までお問い合わせ下さい。

永代供養墓
（大亀地藏尊永代供養墓）



第14回修養会ご案内

本年は、後水尾法皇ゆかりの円通寺と閑臥庵の2ヶ寺を拝塔します。特に円通寺は比叡山を借景とした見事な枯山水庭園が有名で、後水尾法皇みずから比叡山が最も雄大な見えらるこの地に幡枝御所を建て、跡地に創建された臨済宗の禅寺です。残念ながら、周辺の開発が決定し、見事な借景が観られるのもあと僅かだそうで、是非ご参加下さい。閑臥庵（黄檗宗）は美人尼僧の作る普茶料理が有名で、第4回（平成9年）の再来です。あと工場見学など予定しています。是非、お誘い合わせの上ご参加下さい。

- 日 時 11月3日（月・祝日）
- 集合場所 8時30分 九島院受付後バス乗車
- 旅 程 九島院 — 円通寺 — 閑臥庵（昼食・普茶料理） —
- 工場見物・買物（綻） — 九島院（5時解散予定）
- 会 費 金壱万円（当日受付時に頂きます）
- 募 集 40名（満員になり次第締め切り）
- ※先着順です。お申し込みは、別紙申し込み用紙にご記入のうえ、当院（06-6583-2725）まで、出発日の半月前に確認書をご郵送します。

くいだおれで相合傘句会
七月に閉店する道頓堀の飲食店「くいだおれ」で相合傘の川柳句会が開かれ、小納の川柳が人位に輝きました。

女将の柿木道子さんも相合傘の一員で、賞品に『くいだおれ太郎』のゼンマイ仕掛けの人形を頂きました。いい記念になりました。



新規墓地を開設しました。故郷の墓を移される方や寿塔（生前墓）分家墓をお考えの方一度お問い合わせ下さい。

三月二十八日に当院檀徒の山田恵子さまより、山田家に伝わる文球菩薩座像が奉納されました。ご主人の父憲太郎さまが東京の骨董屋さんで購入されたものだそうで、鑑定書も付いています。極書 古美術鑑定事務所 東京市小石川区西江戸川町十八番地電話 小石川四三二〇番と印刷された封書に、以下の鑑定書が墨書されておあり、文球菩薩尊像明末金銅製 丈一尺二寸一分 右時代ノ作ニ相違無之者也 中村寒林（朱印） 明末といえば、黄檗宗の宗祖隠元禪師が中国福建省の黄檗山に二十九歳で出家

文球菩薩像奉納

〜 隠元禪師ご活躍の頃の像 〜



文球(殊)菩薩座像

されたのが一六一七年で、前年には後の清朝の基礎を築いたヌルハチ（太祖）が後金（こうきん）を建国し中国は動乱期に入っています。五十三歳で明朝は滅び、清国が誕生。承応三年（一六五四）六十三歳で来日されるまで諸方遍参し、黄檗山主となる明末清初の期間に、この文球菩薩像が造られています。九島院の寺宝として、宗祖を偲びつつ伝えていきます。

嫁にいく
娘にもたす
母の味

相合傘句会 4/25 句題『伝統』で 人位

九条から阪神三宮駅・近鉄奈良駅まで直通列車が走ります！

新規墓地を開設しました。故郷の墓を移される方や寿塔（生前墓）分家墓をお考えの方一度お問い合わせ下さい。

奉納抄

○金八萬円御寄進

岡田宏さまより、兄君の晃さまの五拾回忌法要を無事勤められたのを機縁に金八萬円がご寄進されました。お寺のため有意義に使わせて頂きます。

○金五萬円御喜捨

弊師弘忠の本田小学校後輩の藤田某氏より、幼少の時九島院で悪戯をしたとかで、金五萬円の喜捨がありました

編集後記

▼例年「花粉症」に悩まされる小納ですが、予防薬が効いたのか、今年は随分ましでしたが、気候不順で風をひき連休明けごろより声帯を傷めました。▼大声だけがとりえの小納のお経ですが、声がれで思うように唱えられませんが、北京五輪出場が決まった女子バレーボールの柳本晶一監督も、声をからし（声は）本番にとっておこうと、身振り手振りで練習の指揮をとっています

ました。▼「男は度胸女は愛嬌、坊さんお経」といいますが、声が出なくて仕事にならず、「無言」で朝のお勤めをする始末です。▼社会人にとっては「体調管理」が重要で、フィリピン？では、肥満の警察官は解雇させられるそうです。▼いよいよ盆月、猫の声も借りたいぐらいのお経三味の棚経が始まります。それまでに、正常な声に戻りよう祈っています。

● 逆転の発想

ドイツ西部で、渋滞、事故の多い交差点を逆転の発想で改善する取り組みが始まりました。テレビニュースで知った話です。

それは、交差点の交通標識や歩道をすべて撤去するものです。もともとオランダで実験され、大成功を収めたそうで、交差点を円周路の一方通行にしてどこからでも、どんな車種でも進入可能にしたところ、各自が各自の判断でお互いに注意しあい、事故が激減したそうです。

「交差点には魔物が住む」と自動車教習場で教えられました。事故が多いからこそ、人と車の分離やUターン禁止など交通標識が必要なのだとの常識があります。事故防止のための交通標識ですが、それは、通行する人に注意を喚起するためのもので、大事なことは、通行者がお互いに注意しあうことなのです。

常識はときとして、判断を硬直化させます。常識に縛られてものの本質を見失います。自由に発想する思考こそ大事なのです。

今年の花まつりの講演会での、講師のひろさちあ先生（九条の商店街 増田薬局の長男）の話です。

日本はウナギの稚魚シラスをカナダから空輸しているが、20%しか生き残らず、残りの80%が輸送中に死んでしまうのだそうです。一計を案じ、ウナギの稚魚シラスの水槽の中に、なんとウナギの天敵のナマズを入れたところ、ウナギの稚魚はナマズに食われまいと逃げ回り生存率が逆転したそうです。奈良県の宇陀郡榛原の山寺に閔正道という和尚がいました。同志社大学を卒業され禅坊主になった方で、残念ながら昨年58歳で遷化されましたが、「山寺だから出来ないんじゃない、山寺だからこそ出来ることがある」と布教活動に精進されていました。常識にとらわれない逆転の発想こそ大事なのです。



九条から阪神三宮駅・近鉄奈良駅まで直通列車が走ります！

水灯会・うらぼん施餓鬼

8月19日(火)
午後1時半より

※ご先祖供養です。宗旨に関係ありません
ご回向お申し込み下さい。

法 話 ・ 住 職

ご
案
内